

(様式第7号)

### 地域の課題解決のための活動報告

記入日：令和4年6月18日

作成者： 工藤 真那

地域の課題解決のために行った活動を1つ選び、できるだけ具体的な数値を挙げて報告してください。すべての項目に、一般の人に伝わりやすいようにご記入ください。

\*この報告はあしや市民活動センターのホームページに掲載されます。

(登録を公開している団体のみ)

団体名	
一般社団法人 日本熊森協会	
事業名	日時(期間)、場所
再エネ開発による森林破壊への問題提起と住民活動の支援	2021年7月～
内容(実績) *実施したことを具体的に	受益者数
熊森協会は次世代にクマが棲めるほど豊かな森を残す事を目的に活動しています。昨年再エネ発電の開発のため、安価に購入できる天然林が大規模に破壊されている事を知り、再エネによる奥山開発規制を求める活動を行うことを決定。7月には不当な再エネ開発に苦しむ地域団体を繋げ「再エネ問題連絡会」を結成。現在、全国の39団体、およそ3万人が参加しています。再エネ問題連絡会は政府の「再生可能エネルギー等に関する規制等の総点検タスクフォース」に参加。議員連盟に働きかけ、山林開発規制を求めています。	( )人
	参加者数
	(約3万)人
成果(社会へのインパクト) *どのような良い変化を社会にもたらしたかを具体的に	
再エネ一辺倒の日本ですが、再エネを闇雲に推進してしまい、健康被害や景観問題などの住民トラブルや、山林開発に伴う大規模森林伐採、河川の汚濁問題などの環境被害は枚挙にいとまがありません。再エネ問題連絡会では、問題を訴えるだけでなくどうすればよいか提案もしています。再エネ連絡会がメディアに取り上げられる事で、徐々に現行の再エネ推進を問題視する声、以前より増えています。	
今後の展望(どのように継続、発展するか)	
再エネを推進するのであれば適切な場所で行う必要があります。今後も私たちの水源である山林での開発を規制する法律の整備を求めています。 月に1回zoomで会議を開き、各団体と話し合ったり、学者の方をお呼びして勉強会をしたりして、参加者の方々との意思の疎通、知識の向上を促しています。	